

集え我らのバディ達よ



平成 24 年度は、3 年に 1 度の「B & G 全国指導者会総会」の開催年度です！

前回の総会には 600 名を上回る指導員が一同に集結し、全国に向け「水の事故ゼロ運動」の強力な推進とともに指導員の結束を図りました。

第 2 回総会の開催にあたり、より多くの出席をお願いするとともに、かつて苦楽をともにした仲間の同期会の開催も併せてお願いします！

B&G 全国指導者会 第 2 回総会 開催予定

日時：平成 25 年 1 月 26 日（土） 場所：笹川記念会館 2F 国際会議場（東京都港区三田 3-12-12）

※総会内容の詳細については追ってお知らせいたします。

冬季における指導者研修事例

可児市海洋センター 野崎 豊

岐阜県 B & G 連絡協議会では、年 2 回のインストラクター研修会を実施しています。各センターの担当者や指導員が集まり、1泊2日で様々なスポーツや自然体験を通じて資質の向上を図るとともに、指導員相互の交流を深めています。

平成 23 年度の第 2 回インストラクター研修会は、高山市の「おっぱら自然体験センター」という小学校を改装した施設で、「かんじきトレッキング」や「転倒・寝たきり予防プログラム」を行いました。

「かんじきトレッキング」は、その名の通り木製の伝統的なかんじきを履いて、山林を散策する活動ですが、2月の高山はまさに極寒の地です。不慣れなかんじきでもフカフカの雪の上を歩いたり滑ったり、貴重な体験となりました。

また、今回の講師を務めた「おっぱら自然体験センター」職員の齋藤さんは、寒さを吹き飛ばしてくる見事な話術で、かんじきや自然について解説してくださいました。参加者を楽しませる心配りや話し方は、同じ指導員としてたいへん参考になりました。

参加した指導員の方々も、その技術を持ち帰り、各センター事業で活用してくれることと思います。



寒さを吹き飛ばした齋藤講師の熱心な説明



高山での 2 日目の朝は、現地の温度計でマイナス 18℃！なんと数年ぶりの最低気温だったそうです。まあ、これも自然現象の一つということで、良い経験になったのではないのでしょうか。

岐阜県連協では、今後も様々なスポーツを体験しながら県内指導員の交流を深めていきたいと思えます。

B&G全国指導者会ブロック責任者紹介

前号に引き続き、B&G全国指導者会のブロック責任者を紹介します。本紙で全国展開していく、方言を交えた面白プロフィールです。



北陸ブロック
責任者
多田 朗
第25期AD・AQ

●家族構成↓妻1人、長男、長女、母の5人ですが、母は入院治療中

●最近、ハマっているもの？↓漢方薬

●最近やらかした失敗↓おとなしくしています・・・だから、無い！。

●座右の銘↓人生はケ・セラ・セラ

●気になること↓昨年からの体調壊した腎臓病

●パワーの源↓若い女性と対話すること。ついて行けない、相手にされないけど・・・。

●これからの夢↓以前のように、鰻腹うまいもん食べたい。未練たらしいかな？

●自分を一言で表すと↓損得考えないいい奴。正直もんなかな？



関東ブロック
責任者
白戸 重行
第31期AD・AQ

●最近の出来事↓13年ぶりに元気な男の子が生まれたぞ！

●最近、ハマっているもの↓デジカメでやたらに息子を撮りまくっていること、

すでに親バカになつてるぞい・・・

●気になること↓やたらと白髪の量が加速して増えまくっていることと、薄くなつてきたことかな トホホ・・・

●パワーの源↓それは、息子2人。あつ、奥さんもかな！

●これからの夢↓息子たちと旅行すること

全国指導者会

知恵袋

東京虎ノ門から
地域指導者会へ
送る知恵袋

地域の一員としてB&G指導者会へ

登米市迫海洋センター 千葉桂志

水を大切に共に楽しみながら

命と自然の大切さを

次世代の子供たちに伝えよう

この言葉は、平成24年3月21日に行われたWSN主催の「水の事故ゼロ運動報告会」で、宮城県川崎町B&G海洋センターの丹野さんが、「水と人が生きる町 川崎町」という題の事例発表を行った際、最後に述べたものです。

宮城県では、平成22年に児童2名の水難事故が発生。大人の目が届かない場所で起きたことを重く受け止めた川崎町教育委員会や校長会は、学校支援ボランティア制度の活用を検討しました。

その制度に川崎町B&G指導者会が登録し、教育委員会や校長会

と連携しながら「水の事故ゼロ運動」を推進。学校の授業として、地域にある7校すべての小学校と分校1校、こども園や幼稚園で、25回もの「水辺の安全教室」を実施し、延べ1283名の参加者を数えました。

「授業として実施するため、事前に学校との打ち合わせを十分に行い、対象者の理解度に合わせた言葉使いを考え、時間の制約を考慮したり、学童



が集中できるように遊び心を利用したメニューを取り入れたりして「いきました」と丹野さん。

このほか、機材のリースを受けたことや、フィールドの確認に力を入れたことなども説明しながら、「地域の一人として、命を守る大切な知恵を伝えながら、子供たちと楽しい時間を過ごしたい」と、活動の感想を述べました。

自分の幼少期には、豊かな水辺の環境で遊んでいたという丹野さん。いまの子供たちにも水辺環境の恩恵を感じてほしいし、悲しい事故が起きてはいけなさと強調しました。

このような丹野さんの事例発表

を通じて、今回の報告会では「地域の指導者が地域の子供たちを地域のチカラで守る」ことの大切さを痛感することができました。

なお、「水辺の安全教室」は、全国でさまざまな形で実施されおり、平成23年度は241カ所、延べ35118名が体験しています。

B&G全国指導者会シンボルマーク素案決定

先に募集した本会のシンボルマークに関しては、2月のブロック責任者会議で選考しましたが、「かわいい」「かっこいい」「笑える」等々のマークが多数集まりました。ご応募いただいた皆様に感謝申し上げます。各ブロック総会の際にシンボルマークの素案を公表いたします。お楽しみに！



今年2月に開催した全国指導者会ブロック責任者会議

編集後記・・・(担当 椎葉 泰裕)

平成24年度は、B&G全国指導者会総会の年。ほぼ毎年のように開催してきた私達4回生の同期会でしたが、総会に合わせて実施するようになり、3年に1度の開催にしました。今年はその再会の年！苦楽を共にした同期生との再会の時は、時間は忘れますが、思い出は忘れるどころか次々によみがえってきますね。同期会の多くは「飲み会」ですが、リアルなコミュニケーションの場でもあり、新たな一歩の可能性を秘めた貴重な時間であると思います。ぜひ皆さん、今から研修同期や地域指導者会メンバーにお声がけをくださいね！